

令和7年度 葵が丘小学校 学校評価

I 令和7年度の取組

質の高い学習・生活の実現【主体的・対話的で深い学びの実現 一人一人が活躍できる場の保障】 学習・生活の基盤整備【実践的指導力の向上 学校と地域、家庭の一体的推進、地域における子供の活躍】		
【知】 確かな学力を育む：確かな学力プラン	【徳】 夢や希望を育む：心の育成プラン	【体】 健康・安全を育む 健康・安全育成プラン
<ul style="list-style-type: none"> ○考える楽しさ、分かるうれしさを味わわせる授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・各教科等で育む資質・能力を明確にし、指導と評価の一体化を図りながらその育成を図った。(授業改善) ・子供自ら主体的に学習に取り組み、課題を解決することを目指して、教員が個々にテーマをもちながら授業改善に取り組んだ。(研究授業の実施) ・単元末のまとめや発表、知識技能の定着確認等でICTを活用し、子供たちの学びを深めることができた。(ICTを活用した授業) ○地域に開かれた学びの推進と、「学ぼうふるさと」学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・地域に出て体験活動をしたり、地域の人材から学んだりして、地域の教育力を生かした教育活動を推進した。(外部人材との連携) ○家庭学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが自ら「学びたい」と感じる学習を主体的に行うことができるようにICTを活用した家庭学習も積極的にを行い、習慣化してきた。(ICTを活用した家庭学習) 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ未然防止の理解と実践 <ul style="list-style-type: none"> ・他者との関わり方を身に付けたり、思いやりや助け合いの心や子供自身で課題を解決する力(ピア・サポート)を育んだりするために、葵グループでの活動(葵遊びや葵清掃など)や学年間での交流する機会を設けた。 ○特別活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動及び学校行事等の特別活動により、自分の役割に責任をもって取り組んだり、目標に向けて主体的に参加したりする機会を設けた。 ・学校やみんなのために何ができるか考え、その実現に向けて行動する子供を育てるため、ぴかぴか清掃やクリーンウォークを行った。 ・主体的に他者に関わる機会を設けるため、委員会活動ではイベントや集会の立案や参加等への声掛けや指導を行った。(挨拶、苗植え、クイズラリー、なわとび等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業や体育的活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・体育科の授業では、チームや個人の課題を明確にさせ、課題解決に向けて対話する場面を設け、主体的に活動に取り組んだ。 ・持久走・体力テストでは、体力の実態を踏まえ、個々に目標を定め、その達成を目指す活動を行った。 ○子供がよりよい生活を思い描いた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・運動週間(投力、持久力向上、縄跳び等)を設定し、仲間と協働することを通して、運動する楽しさや達成感を味わせた。(各種スポーツイベント) ・葵チャレンジを通して、一人一人の目標を持ち、楽しみながら運動に取り組むことができた。(縄跳びカード等)
<ul style="list-style-type: none"> ・地域とPTAの連携による学校行事及び学習活動の支援の活性化 ・地域行事等における児童ボランティア等の主体的参加 ・学校支援CDを中心とした学校支体制づくり 		

II 自己評価 ○ 児童の評価

区 で 目 指 す 子 供	開成中学校	ルールやマナーを守り、よいこと・悪いことを判断して行動している。	85.0%
		地域のためになることをしている。	71.1%
		自分や周りの人を大切にしている。	91.7%
宣 言 子	葵っ子	だれとでも明るく心のもった挨拶をしている。	85.4%
		人への思いやり・助け合い・ゆずり合いの気持ちを大切にしている。	89.2%
		強い心を持ち、どんなことにも全力で取り組んでいる。	87.8%
学 力 確 か な		授業の内容が理解できる。	87.4%
		自分なりに進んで考えたり工夫したりして、学習に取り組んでいる。	82.4%
		タブレットを使った学習は、自分の役に立っている。	90.9%
希 望 や		学校を楽しんでいる。	86.2%
		よりよい学級や学校をつくろうと行動している。	77.2%
安 全 健 康		運動することが楽しいと感じたり、目標をもって運動したりしている。	86.2%
		健康や安全に気を付けて生活している。	86.5%
学 校		先生は、勉強がよくわかるように教えてくれる。	91.0%
		先生は、いじめがなく、みんなが仲良く過ごせるようにしてくれる。	91.7%
		先生は、困ったことがあったときに相談しやすい。	85.1%
		学校は、安全や健康に過ごすために大事なことを教えてくれる。	93.7%

○ 職員の評価・分析考察

- ・校内研修の在り方を見直しながら、授業改善に努めた。またICTを活用した授業が増えつつあるが、有効的に活用する指導については、まだ課題が残った。児童は、与えられた課題には一生懸命に取り組むことができたが、より主体的に学習に取り組んでほしいと教員は感じている。また、基礎基本的な学力の定着を目指す必要性を感じている。魅力のある課題設定をしながら、児童が授業や家庭学習で主体的な学びが展開できるように工夫していかなければいけない。
- ・昨年同様ICTの積極的な活用や外部人材との連携により、授業がより深まり実り多い学習につながった。年度の始めに年間を見通した計画を立てることができた。モラル指導を含む情報教育は、来年度も積極的に進める必要がある。
- ・学校説明会や学校、学年だより、ホームページ等で児童の様子を伝えながら、情報公開することができた。しかし家庭教育講座や懇談会の参加率は低いため、共に子供たちを育てる風土の醸成を今後も図っていきたい。
- ・コミュニティ・スクールの充実により、目的に合った外部講師の招へいやサポーターの参加が増えた。今後も6か年のつながりを意識した実践の積み上げを図りたい。
- ・葵グループで参加するイベントも行われた。縦割り活動(清掃、葵遊び)は、よりよい人間関係構築のための重要な活動になった。特に高学年がリーダーとして活躍し、自己有用感を高める機会になった。
- ・運動週間を設定し、仲間と協働することを通して、運動する楽しさや達成感を味わせた。また葵チャレンジと題して、一人一人の目標をもち、楽しみながら運動に取り組むことができる機会を設定した。今後も、運動の楽しさを見つかけながら、健康や安全を意識できる子供を育てていきたい。

IV 今後の改善方策

- ◇ 学年団やテーマ別研修の実践や外部講師招へい等で教員の研修を一層充実させる。「対話」に着目した授業改善に取り組む。また、学校支援CDと連携し、専門的かつ体験的な学習の場を計画的に設定する。
- ◇ 情報活用能力の育成を目指し、ICTを有効活用した授業の推進を図る。授業での活用だけでなく、家庭にも持ち帰り、家庭学習でも利用できるような機会を作る。
- ◇ 自他を大切に温かい関わりができる児童育成のため、特別活動の充実・話し合い活動の充実(学級活動、縦割り活動、委員会活動)を図る。今後も継続していじめ予防教育の理解と実践に行う。アンケートでの調査を引き続き実施し、児童との対話を大事にしていく。「葵チャレンジ」有効活用)
- ◇ 体育科の学習、年間を通した縄跳び練習、外遊び等の体力アップの時間を通して、目標に向かって粘り強く挑戦する態度を育てる場を工夫し設定する。
- ◇ 引き続き情報発信(行事、たより、ブログ等)を積極的に行い、学校・保護者・地域が一体となって関係を深めながら、ともに子供たちの成長を見守る風土を醸成する。

○ 保護者の評価

区 で 目 指 す 子 供	開成中学校	お子さんは、ルールやマナーを守り、よいこと・悪いことを判断して行動している。	92.3%
		お子さんは、地域の行事に進んで参加したり、地域のためになることをしようとしていたりしている。	41.8%
		お子さんは、自分や周りの人を大切にしている。	93.7%
宣 言 子	葵っ子	お子さんは、だれとでも明るく心のもった挨拶をしている。	71.7%
		お子さんは、人への思いやり・助け合い・ゆずり合いの気持ちを大切にしている。	89.4%
		お子さんは、強い心を持ち、どんなことにも全力で取り組んでいる。	70.6%
学 力 確 か な		お子さんは、基礎的・基本的な学習内容が定着している。	73.5%
		お子さんは、主体的に学習に取り組んでいる。	64.4%
		タブレットを使った学習は、お子さんの学習の充実につながっている。	78.4%
希 望 や		お子さんは、学校が楽しいと感じている。	89.9%
		お子さんは、行事に楽しく参加したり進んで委員会や係活動をしたりして、生き生きと生活している。	90.9%
安 全 健 康		お子さんは、体力作りに努めている。	66.3%
		お子さんは、健康や安全に気をつけた生活を送ろうとしている。	84.2%
学 校		学校は、お子さんを理解し、個に応じた支援をしている。	85.1%
		学校は、いじめのない学校・学級・集団づくりに取り組んでいる。	80.3%
		学校と家庭は、教育相談等により、相談しやすい関係となっている。	92.3%
		学校は、安全確保や健康管理のための取り組みを行っている。	92.7%
		学校は、たよりやホームページ等により、必要な情報を発信している。	93.3%

III 学校運営協議会による学校関係者評価

- ・学習活動において、子供たちが主体性をもち行動する姿が多く見られ、一年を通して子供たちの成長を感じた。
- ・さくら連絡網や学校ホームページでの情報発信により、保護者の理解が深まり、行事への参加が増え始めたように思う。しかしながら、地域との関係性はまだ不十分だと感じるため、地域への情報発信のあり方については検討していかなければならない。
- ・目標とする「主体性の育成」をさらに発展させるためにも、コミュニケーション能力を向上が大切であると感じる。多様な文化的背景を持つ児童も多くいる環境の中で、お互いを理解し主体的に交流できる環境を学校・地域が一体となり構築できるよう努めたい。
- ・コミュニティ・スクールが保護者・地域に浸透し始めたように思うが、学校支援に関しては、まだ協力を募る必要がある。また、さらに多くの方に学校運営の基本方針を理解していただくためにも簡潔にまとめる必要があると考える。来年度に向けて、学校運営についての情報発信、地域の方々とのネットワークの充実を図りたい。